

上田市民のくらしと戦争



目次

口 絵

刊行のことば

上田市誌刊行会長

上田市長 平尾 哲 男

監修のことば

東京大学名誉教授・前国立歴史民俗博物館長 石 井 進

まえがき

凡 例

第一章 明治・大正時代の市民生活

第一節 明治維新と市民生活…………… 3

一 慶応から明治へ…………… 3

(1) 上田藩の立場と情勢…………… 3

上田藩も朝廷側へ 上田へ来た赤報隊 上田藩の版籍奉還

(2) 新しい政治へ…………… 5

旧上田藩の士族は新しい職業に 維新で年ごとに増す市民の自由

二 戊辰戦争と上田藩…………… 6

(1) 戊辰戦争…………… 6

飯山の戦争 戊辰戦争の発端

(2)	戊辰戦争への参加	7
	上田藩の参戦 小千谷から榎峠へ	
	上田藩の苦戦 戦局の推移	
	上田藩への影響	
(3)	明治二年の巳年騒動	10
	騒動の原因 騒動の経過 騒動の結果	
三	城下町から町制時代へ	11
(1)	上田の文明開化	11
	上田城の払い下げ 上田町発足へ	
	上田の文明開化事始め	
(2)	徴兵制と西南の役	12
	徴兵制と上田 西南戦争	
(3)	明治天皇の御巡幸	13
	活気あふれる上田町 御巡幸と上田	
第二節	明治後期の市民生活	15
一	飲料水に悩んだ町	15
	猛威をふるう伝染病 柳町の簡易水道・保命水	
	旧上田街学校全焼 馬場町、国分、上紺屋町の水道	
	進む町の近代化	
二	日清戦争のころ	17
	日清戦争のあらまし 出征した兵士たち	
	上田恤兵会の結成 戦勝気分にくく人々	
	戦病死した兵士たち 北清事変の勃発	
三	日露戦争のころ	20
	日露戦争のあらまし 小県郡義勇会の結成	
	莫大な戦費を負担 上田の戦死、戦病死者	
	馬、大麦、荷車の徴発 捕虜となったN軍曹	
	傷病兵の帰還 従軍記念碑の建立	
	明治記念館建設運動	

第三節 大正期の市民生活……………25

一 大正デモクラシー……………25

(1) 大正デモクラシーと市民……………25

大正デモクラシー 上田自由大学 米騒動 上田公会堂の建設

(2) 生活の向上……………27

電気がつく ガス 上水道 電車と新し街

二 養蚕景気と上田……………29

(1) 景気にわく上田……………29

上田へ集まる繭 えびす講 上田遊廓 繁華街 芝居小屋 食べ物屋

(2) 市制の実施……………31

上田町から上田市へ 市役所 二等級に分けて市会議員を選出 市会議員の選挙

(3) 関東大震災……………33

大震災と上田 大震災の影響

(4) 第一次世界大戦とシベリア出兵……………34

第一次世界大戦 シベリア出兵 帝国在郷軍人会

第二章 十五年戦争と市民生活

第一節 経済恐慌下の市民生活……………39

一 世界恐慌……………39

(1) 変わる生活……………39

	ひとを雇つての養蚕	職業紹介所	水道	食べ物の変化	洋装化へ
(2)	恐慌のまえぶれ				41
	遅霜	昭和二年五月の大霜	安い繭価	救済資金	商店街の不景気
(3)	世界恐慌				デパートの出張販売
	世界恐慌のはじまり	繭価の暴落			43
(4)	金融不安				44
	信濃銀行の倒産				
二	不況対策				45
(1)	失業・不況対策				45
	村へ帰る失業者	失業対策事業			
(2)	上田飛行場				46
	中之条の河原	話のはじまり	飛行大会	上田市の失業対策	飛行場づくりと竣工式
(3)	自力更生への動き				47
	副業の導入	桑に代わる作物			
(4)	更生運動				48
	県指導の更生運動	浦里村の更生運動	自作農の創設		
(5)	満州移民				50
	満州開拓団	李花小県郷の人々	上田からの青少年義勇軍		
(三)	社会運動の広がり				51
(1)	教員給料の減俸				51
	村の財政支出を減らすために	児童の同盟休校			
(2)	電灯料の値下げ争議				52
	青年団の決議	争議の終結へ			

四	市民生活と娯楽	56
(1)	市民の生活	56
(2)	便利になる交通 飛行場に活路を 苦しい低所得者 娯楽を求める市民 スケート スキー 映画 流行歌 軍歌と国民歌謡 カフェーの繁盛 ささやかな慰労会 村の図書室 保健施設	57
第二節	満州事変から日中戦争へ	61
一	満州事変と市民	61
(1)	戦争への道	61
(2)	満州事変 第一次上海事変 凱旋兵士の歓迎会 五・一五事件 愛国機信濃号 思想弾圧	63
(3)	波瀾のメーデー 二・四事件 「軍国の春、上田」の催し	64
(4)	防空大演習 飛行場献納式 軍服盗難事件 銃後の活動	66
(5)	千人針と慰問袋 出征家族への支援 体力づくりと増産 青少年の体力賞検定 簡易託児所 農業生産の向上へ 食糧増産 畜力の利用 石油発動機の導入	68
二	日中戦争と市民	69
(1)	日中戦争へ	69

二・二六事件	中国との全面戦争	郷土部隊のようす	戦勝祝賀行列	出征兵士の送迎	市町村葬
(2)	長期の戦時体制へ	銃後後援会	青年団	大日本青年団北部動員大会	処女会から女子青年団へ
(3)	婦人会が国防婦人会に	政党解体と大政翼賛会	在郷軍人会の活動	防空大演習	
(4)	農村の体制	増える小家畜	桑皮の出荷	米穀の供出	野菜の供出
(5)	経済統制	米穀の統制	砂糖もマツチも配給	公定価格	
(6)	上田飛行場の拡張	分隊の駐在する飛行場	飛行場の拡張	国内引きしめの強化	
	国民精神作興運動	町内会隣り組	国債の消化	事変に対応する村の予算	
	修学旅行と「時報発行」の中止	国家総動員法			

第三節 太平洋戦争と市民生活

一 太平洋戦争と戦時体制

太平洋戦争と戦時体制	82
(1) 開戦と市の対応	82
太平洋戦争のはじまり	
市への対応	
土曜日も一日勤務	
常会を定例日に	
大会や講演会	
(2) 戦局の推移	84
緒戦の勝利	
戦局の転換	
連合国軍の反撃	
あいつぐ撤退	
サイパン島陥落	
ビルマ・中国戦線	
硫黄島・沖縄の戦い	
本土空襲	
ソ連の参戦	
(3) 国民を操る	87
国の思うままに	
情報を操る	
常会	

	(4)	総動員体制……………	89
		食糧増産の命令	
		米麦の供出	
		労働力不足	
		勤労奉仕	
		食糧自給の試み	
		企業整備令	
		軍需産業への転換	
		深刻な人手不足	
		学徒動員―名古屋へ	
		学徒動員―風船工場	
		学徒動員―体験記	
		金属回収	
		松根油	
		木炭・木材・薪	
		森林組合	
	二	厳しい耐乏生活……………	97
	(1)	乏しい食糧……………	97
		早くから混合食	
		献立表から	
		玄米を食べる	
	(2)	少ない配給の量……………	98
		ひもじい生活	
		庶民の知恵の代用食	
		食糧確保に四時間半	
		警察の取締りの中で	
	(3)	生活必需品の配給……………	99
		衣料の配給	
		マッチ・たばこ	
		ゴム靴、地下足袋	
	(4)	戦時下の生活の中で……………	100
		ぜいたくは敵	
		欲しがりません勝つまでは	
		映画と歌	
	三	市民の安全と生活……………	102
	(1)	敵機の来襲に備えて……………	102
		警防団の結成	
		防空演習を重ねる	
		灯火管制の訓練	
	(2)	厳しい労働……………	103
		増える病気や怪我	
		農村	
		工場	
		地下壕の工事	
	(3)	健康保険組合の設立……………	104
		設立の趣旨	
		保健組合の事業	
		神科村健康保険組合	
		足りない医師	
	四	地下工場の建設……………	105
	(1)	上田へきた軍需工場……………	105
		招致工場	
		疎開工場も上田へ	

(2)	地下工場建設へ……………	107
	「ウ工事」 建設を急ぐ 軍の不足は地元で 工事に動員された人 ひどい人手不足 作業の状況	
五	学童疎開……………	111
(1)	疎開してきた子供……………	111
	学童も戦争を避けて 集団疎開 再疎開……………	
(2)	学童疎開を受け入れた村……………	113
	受入れ準備 別所村では 疎開の子供の到着 寮母さん 共同炊飯所の設置 食糧確保に 内蔵肉のカレーライス 干し柿を子供に 一日里親 感謝の碑……………	
六	上田の空襲……………	118
(1)	はじめての空襲……………	118
	まさかの上田空襲 不発弾処理中の事故……………	
(2)	空襲に備えて……………	119
	防空壕づくり 海野町や馬場町の家屋取り壊し 文書疎開と終戦後の焼却……………	
(3)	上田飛行場の状況……………	120
	激しくなる飛行訓練 特攻隊の訓練 上田から沖繩へ……………	
(4)	八月十三日の空襲……………	122
	空襲の状況 空襲での被害……………	
(5)	八月十五日の空襲……………	123
	報道されない空襲 鈴子の話 浦里の話……………	
七	敗戦……………	124
(1)	戦争が終わる……………	124
	八月十日に知った終戦 玉音放送① 玉音放送② 特攻教官の死 復員した人々……………	
(2)	疎開児童が帰る……………	126

第三章 平和と民主主義

第一節 戦後の混乱の中で

一	進駐軍と市民	131
(1)	終戦と上田	131
	増える人口 終戦当時の市内 商店の動き	
(2)	上田への進駐軍	132
	米軍受け入れへ 上田へ来た第三六五大隊 上田キャンプ	
(3)	占領下の町や村	133
	進駐軍の武器押収 占領下の政治 文書や出版物の検閲 交通問題 衛生問題 憲兵裁判所 アメリカ文化のPR	
(4)	進駐軍への対応	136
	進駐軍用の娯楽施設 米軍向けのバザー店 進駐軍との交流 ダンスホール問題	
二	苦しい生活	138
(1)	食糧確保をめざして	138
	食べる物が無い 上田飛行場の開墾 野草の活用 新円きりかえ 市営の製塩業	
(2)	食糧危機	140
	配給米がない 青果物と魚 食糧危機への取り組み 七月の食糧危機 青果公設市場 食糧危機脱出 年末の救援と学校の給食 昭和二十二年の食糧事情	
(3)	工場の動き	144

第二節 戦後復興と市民生活

一 諸改革と市民生活

(1) 新しい国づくり

婦人に参政権 学校から軍国主義を取り去って

天皇の上田巡幸

町内会と隣組

日本国憲法

152

(2) 諸改革と労働運動

宗教の自由 農民組合 労働組合

(3) 労働争議

信越電線の争議 二・一ゼネスト

鐘通争議とたばこ工場招致

156

(4) 新聞・ラジオ・テレビ

新聞 ラジオ テレビ

157

(5) 庶民の娯楽

満員の映画館 演劇も人気

二十四年ぶりの競馬

八日堂縁日と祇園の復活

158

二

(1) 朝鮮戦争

朝鮮戦争から講和条約まで

160

戦争をみる目 レッド・ページ

警察予備隊の創設

戦争特需

160

三 満州で抑留された人々

戦争の犠牲者

抑留された人々

抑留の生活(1)満蒙開拓団員

抑留の生活(2)関東軍の兵士

147

(5) 交通事情

混雑する汽車 石炭がない

かつぎ屋と取り締まり

146

(4) 電力危機と燃料

薪と木炭 電力危機

145

軍需産業から平和産業へ

従業員の意向も取り入れて

(2) 講和会議	162
----------	-----

三 生活の安定へ	162
----------	-----

(1) 衣食住	162
---------	-----

緩和された食糧事情 厳しい住宅事情

(2) ごみ問題と焼却炉の設置	163
-----------------	-----

ひどい衛生状態 増加するごみ ごみの焼却炉建設

(3) 年々増加する汚物処理	165
----------------	-----

農作物の肥料に 増える汚物の処理 市営の汚物処理

(4) 上水道と伝染病	166
-------------	-----

広がる伝染病 赤痢の大発生 水道設置の動き 水不足に悩む市水道

(5) 医療	167
--------	-----

無医村 健康保健の復活 医療施設

第三節 経済の高度成長と市民生活	169
------------------	-----

一 冷戦の中での平和	169
------------	-----

(1) 安保反対闘争と平和運動	169
-----------------	-----

平和運動の高まり 安保改定交渉 安保反対闘争

(2) ベトナム戦争のもたらしたもの	170
--------------------	-----

ベトナム戦争の経過 ベトナム戦争と日本 反戦のひろがり

二 変わる市民生活	173
-----------	-----

(1) 経済の高度成長	173
-------------	-----

日本経済の拡大 工業を優先に

(2)	生活革命……………	173
	安定した食糧 生活改善 生活改善同盟会 結婚改善運動 薪炭からガス・石油へ 三種の神器 ラジオからテレビへ	
(3)	上田の市街の繁栄……………	177
	変わる産業のしくみ 工場誘致と工業化 商業の発展	
(4)	変わる衣食住……………	179
	洋装の流行 インスタント食品の普及 住宅団地の造成 市水道と県営水道 上水道の水源確保 ごみ焼却場の設置 し尿処理場の設置	
(5)	交通・通信事情……………	182
	道路の舗装 産業道路の新設 広がるバス路線 汽車から電車 上田電報電話局の誕生 電話の普及 有線放送と有線電話	
三	大量消費の時代へ……………	185
(1)	すすむ工業化……………	185
	続々できる工場 取り残された農業 商店街とスーパー	
(2)	大量消費時代の幕開け……………	187
	使い捨てがいい ファッション革命 多様化する衣類 情報がはらんする 一億総白痴化 ステレオからカラオケへ 日常化する外食 建てかえられる家 銭湯の減少	
(3)	社会変動の波……………	192
	松代地震 石油危機 バブル経済	
(4)	急変する交通・通信事情……………	194
	自動車の急増 住民の足としての車 車にむしろまれる人 信越本線特急あさま 北陸新幹線（長野新幹線） 自動化がすすむ電話 電話の多様化 携帯電話	
(5)	公害と環境問題……………	197

執筆分担

参考文献

あとかき

上田市誌の編さん組織

公害の発生	市の公害対応	すすむごみ処理	公共下水処理	ミニ下水道（集落排水事業）
簡易浄化槽	清浄園の改善			
すすむ医療制度				
公立の医療施設	民間の医療施設	医薬分業		
社会福祉の広がり				
大きく変わった社会福祉	生活保護	児童福祉		
障害者の福祉				
増える心身障害者	視覚障害者	聴覚障害者	内部障害者	知的障害者
老人福祉				
高齢者の急増	一人暮らしの老人	介護保険制度の発足		

表紙 海野町日曜広場（市制七十周年記念 上田市勢要覧）
裏表紙 雲梯で遊ぶ子供（平成十二年 西塩田保育園）

上田市誌 近現代編(7)

上田市民のくらしと戦争

発行 平成十二年十一月一日

編集者 上田市誌編さん委員会

発行者 上田市

上田市誌刊行会

上田市大手一―二―一六

電話 〇二六八―三二―四一〇〇

印刷所 信毎書籍印刷株式会社

長野市西和田四七〇